

二級河川野呂川水系河川整備計画懇談会 議事要旨

日 時：令和 2 年 10 月 28 日(水) 18:00~20:00

場 所：安浦まちづくりセンター 中ホール

出席者：(委 員)：7 名

(以下○：委員意見)

(事務局)：西部建設事務所呉支所長 他

(以下●：事務局発言)

議事) 野呂川水系河川整備計画(素案)について【資料-4】

・事務局より資料による説明

(主な質疑等)

- 野呂川ダムの操作ルールの変更についてだが、令和元年 11 月の新聞報道で操作ルールを見直す記載を見た。本年 6 月から運用すると報道されていたが、整備計画で操作ルールを変更するという事は、現在、実施していないということか。
- 報道の件は、降雨が発生する前に事前に貯水位を低下させる「事前放流」のことだと思う。平成 30 年 7 月豪雨発災後、既に実施している。
- 整備計画対象期間が 30 年となっているが、長い期間となっており、地元からすると工事期間が短くなる方向がよいと考えている。
- 整備計画対象期間については、中畑川用地買収等の整備があるため、期間が長くなると考えている。一方で、被害の軽減効果の早期発現を目的に、可能な対策を優先的に実施することを考えている。
- 地元説明会においては、整備の工程表的なものや、現在の災害復旧の進捗状況を示す資料が必要と考えている。
- 現時点での工程や効果を示す資料について、ご提示できる範囲で考えていく。
- 野呂川のどこから氾濫が生じ、その区間の改善点等がわからないが、この整備により溢れなくなるのか。
- 平成 30 年 7 月豪雨相当の洪水に対応するように、河川の整備を先行して実施し、ダムの操作ルールの変更を行うことで家屋浸水防止を図る。
- 野呂川ダムの土砂の堆積があったと思うが、それが撤去されたのか。また現況の野呂川ダムの貯留能力はどれくらいの量になっているか。
- 平成 30 年 7 月豪雨についての土砂量は、13 万 m³ 流入した。災害後の土砂の撤去について、最低水位 122.4m 以上の約 6 万 m³ はすべて撤去した。よって、洪水調節容量や不特定容量は発災前の状況に回復した。なお、残りの約 7 万 m³ は堆砂容量の範囲となっている。
- 野呂川ダムは広い範囲から集水していると思うが、どのくらいの面積か。
- 集水面積は 13.0km² である。
- 堆積土砂は、現在どのくらいたまっているのか。

- 堆砂容量として 50 万 m³のうち、概ね 20 万 m³、現在 4 割程度たまっている。
- 野呂川の 120m³/s の流量は河川の水位はどの程度の高さとなるのか。藤浪地点での状況を教えてほしい。
- 現在資料を持ち合わせていないので、後日、報告させていただくこととしたい。
- 野呂川については、土砂掘削で早期に対策ができると思うが、中畑川については長期にわたると思うので、短期で実施できる土砂対策など優先的に実施していただければと思う。
- 了解した。
- 維持管理をすると記載があるが、どこの事務所が実施するのか。県道の件など、呉市と県で不明であったことがあったのでよろしくお願ひしたい。
- ダムの維持管理は野呂川ダム管理事務所、河川の管理は呉支所の維持課が担当している。ご指摘を踏まえ、連携していきたいと思う。
- 資料や説明について専門用語が多くてよくわからない。地元説明会時には丁寧にわかりやすく説明していただきたいと思う。また、河川沿いの家屋や道路に影響が出ると思うので、今後の資料においては、整備後の状況を含め、横断図の寸法記載と現地写真等で示していただければわかりやすいと思う。
- 了解した。

報告事項 1) 野呂川水系河川整備計画住民アンケートについて【資料－5】

- ・事務局より資料による説明

(主な質疑等)

- 野呂川周辺の配布で、約 3,800 戸は多いのではないかと。どのエリアを考えているのか。
- 野呂川水系流域について配布する予定としており、中畑川及び中切川の流域住民も対象にしている。
- 中切川上流の安登地区も含むということか。
- そのとおりである。

報告事項 2) 地元説明会について【資料－6】

- ・事務局より資料による説明

(主な質疑等) なし